

米国における有機食品生協の発展 — ピープルフードコープに関する事例研究 —

所属 役職: 立正大学 経営学部 教授

著者名: 畢 滔滔(びいたおたお)

要約

米国において、1960年代「ニューウェーブ食品生協」と呼ばれる食品生協が台頭し始めた。これらの生協の多くは、同時期に日本で台頭した食品生協とは異なり、後に有機食品生協へと発展した。本論文では、ニューウェーブ食品生協の多くが有機食品生協へと発展を遂げた理由について、オレゴン州ポートランド市において最も長い歴史を持つニューウェーブ食品生協「ピープルフードコープ」に関する事例研究を通じて検討した。本論文の結論は三点にまとめられる。第一に、消費者保護運動の一環として生じた日本の食品生協運動とは異なり、ニューウェーブ食品生協運動は、大量消費社会に反抗した運動であった。それが故に、同運動は、「シンプルなライフスタイル」を提案し、そうした理念に適合する有機食品を取り扱うようになった。第二に、日本の食品生協とは異なり、ニューウェーブ食品生協は、マスマーケットをターゲットとはしなかった。そのため、発展期にスーパーマーケットとの競争に巻き込まれずに済んだ。第三に、従業員の自主管理を重視する組織において、従業員達のアイデアを次々と取り入れたことが、ニューウェーブ食品生協の発展に大きく寄与した。

キーワード

ニューウェーブ食品生協, 日本の食品生協, 消費者保護運動, 慣行食品スーパー, 官僚制組織

1. 問題意識・リサーチクエスチョン

1960年代後半以降、米国では「ニューウェーブ食品生協」と呼ばれる食品生協が台頭し始めた。ニューウェーブ食品生協は、同じく1960年代後半から日本で台頭し始めた食品生協とは、品揃えのみならず、有機農業の発展に及ぼした影響という点で大きく異なるものであった。日本の食品生協は、有機農産物を主要な取扱商品とはしてこらず、販売チャネルを提供することで、日本における有機農業の発展に貢献してきたとはいいがたい。一方、米国のニューウェーブ食品生協の中には、その設立初期から自然・有機農産物を取り扱い、今日では有機食品生協として発展を続けているものが少なくなく、米国における有機食品産業の成長に大きく貢献した(Knupfer, 2013)。日本の食品生協とは異なり、米国のニューウェーブ食品生協の多くが、有機食品生協へと発展を遂げたのはなぜなのか。本論文では、この問題について、オレゴン州ポートランド市におけるピープル

フードコープ (People's Food Co-op) の事例研究を通じて検討する。

II. ニューウェーブ食品生協: 日本の食品生協との相違

日本の食品生協が発展したのは、1960年代後半、日本において消費社会が形成されたばかりの時期であった。生協運動の主要な担い手となったのは、核家族の専業主婦達である。日本の食品生協運動の目的は、大量消費社会において組合家族の生活の向上を図ることにおかれた(生田・西岡, 1986; 中嶋, 1992)。一方、ニューウェーブ食品生協運動のリーダーおよび参加者となったのは、主に大学生や大学院生、教授、環境保護運動活動家などカウンターカルチャー活動家達であった(Cox, 1994; Knupfer, 2013; Zwerdling, 1979)。また、ニューウェーブ食品生協運動の目的は、「カウンターカルチャー的な経済システム」を構築することで、労働者と消費者が自分の生活をコントロールする自由を、資本主義、帝国主義、物質主義の支配から取り戻すことにあった(Cox, 1994, p. x)。こうした運動の目的により、ニューウェーブ食品生協の取扱商品は非常に独特であった。

III. 結論

米国のニューウェーブ生協と日本の食品生協とが異なる道を歩んできた根本的な原因は、それぞれの生協が依拠する運動の性質が異なることにあったと考えられる。日本の食品生協運動は、大量消費社会を前提とした上で、そうした社会における消費者の利益を保護することを目的とした消費者保護運動であった。対照的にニューウェーブ食品生協運動は、大量消費社会・物質主義そのものに反旗を翻した運動であった。それが故に、ニューウェーブ食品生協は、シンプルライフや少ない消費という新しいライフスタイルを提案し、また、そうしたライフスタイルに適合した品揃えとして自然・有機食品を取り扱うようになった。

主要引用文献

生田靖・西岡俊哲 (1986). 「1960年代後半以降における生協の展開」野村秀和・生田靖・川口清史 (編) 『転換期の生活協同組合』大月書店, 23-44。

中嶋陽子 (1992). 「生協組合員のライフ・スタイル」野村秀和 『生協 21世紀への挑戦: 日本型モデルの実験』大月書店, 49-57。

Cox, C. (1994). *Storefront Revolution: Food Co-ops and the Counterculture*. New Brunswick: Rutgers University Press.

Knupfer, A. M. (2013). *Food Co-ops in America: Communities, Consumption, and Economic Democracy*. Ithaca: Cornell University Press.

Zwerdling, D. (1979). The Uncertain Revival of Food cooperatives. In John Case and Rosemary C. R. Taylor (eds.), *Co-ops, Communes & Collectives*, New York: Pantheon Books, 89-111.